

なぜ防衛予算は増え続けるのか？

1. 国民が防衛予算増額を認めている、求めている ← 結論

- ◆ 不安を煽る言説、メディア、フェイク情報の氾濫
- ◆ 受動的、“外からの視点”がない、応用力に欠ける人たち
- ◆ 防衛予算は選挙の争点にならない

2. 選挙の争点の決まり方

- ◆ 選挙の争点は政治家の側が有権者に提示して決まることが多い
- ◆ 首相が解散権を行使して総選挙が実施されるのがほとんどだから
- ◆ 与党が何を争点にして選挙を実施するかを決めることができる
- ◆ 解散権を持つ側からすれば、勝てる時に勝てる争点で選挙を戦うのが合理的な戦略

3. 選挙の争点の問題点

- ◆ 日本の選挙は選挙期間が非常に短い
- ◆ 野党や市民社会が与党と異なる争点を世論に訴える時間と機会が少ない
- ◆ 公職選挙法の影響から、選挙告示後のメディア報道も制約される
- ◆ 与党以外から出される争点が有権者に認知されることが難しい
- ◆ 合意的争点が増えることで、どの候補者も聞こえの良い政策を訴える傾向がある

4. 争点はどう決まるのが良いのか？

- ◆ 争点が明確な選挙も過去にあった(2005年「郵政解散」、2009年の「政権交代」)
- ◆ 争点が明確な選挙は多くない
- ◆ 単一の争点で政治の行方を決めるることは必ずしも望ましくない

5. 争点に基づく投票の難しさ

- ◆ 政党が異なる政策を掲げる必要があるが、どの政党も似たような公約を掲げる傾向がある
- ◆ 有権者は一つの争点ではなく、複数の争点から優先順位をつける必要がある
- ◆ それが政党の掲げる争点と同じになるとは限らない
- ◆ その対策が本当に実行されると信頼できるかどうかも重要

6. 試行錯誤

- ◆ マニフェスト選挙(2000年代半ば)→後で政策を実現できなかったりして衰退
- ◆ 業績投票→政権を任せ、及第点なら与党、落第点なら野党に投票

7. これからの課題

- ◆ 争点は社会の多様さに応じた形で多様である方が好ましい
- ◆ 社会保障負担や選択的夫婦別姓、人口減少、都市と地方の格差、多文化社会の構築などの問題は選挙だけでは解決できない
- ◆ 日本の政治は選挙に偏り過ぎている
- ◆ 選挙以外の広い意味での政治参加を促すことが大切